

令和8年5月26日 15:00 現在

保健医療局 保健所 感染症対策課 担当：堀、葛原

TEL 791-7081 (内線199-133)

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の発生について

福岡市保健所管内において重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の福岡市内1例目の発生届がありましたのでお知らせします（入院事例）。

1 概要

5月21日（木）福岡市外在住の80代男性に発熱、全身倦怠感が出現。

5月23日（土）発熱、全身倦怠感に加え血便が出現したため、医療機関Aを受診。医療機関Aの紹介で医療機関Bを受診し、入院。

5月25日（月）医療機関Bより、福岡市保健所に検査依頼あり。行政による検査の結果、SFTS陽性判明。

5月26日（火）福岡市保健所が患者の健康調査、疫学調査を実施。

2 患者の状況

入院治療中。

3 行政対応

患者の健康調査、疫学調査を実施。

4 原因

調査中

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の福岡市への届出状況（令和8年5月26日現在）

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
報告数	1	0	0	0	3	1	0	1	0	0	2	1※

※本件を含む。

【特記事項】

患者及び家族等の個人情報については、プライバシー保護の観点から、提供資料の範囲内での報道をお願いします。本件に関するお問合せは、開庁時間内をお願いします。

【市政記者クラブの皆様へ】

記者クラブ各位におかれては、次のことを市民の皆様呼びかけていただきますようお願いいたします。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）はダニ媒介感染症の一種です。
- ダニ媒介感染症とは、病原体を保有するダニに刺されることによって起こる感染症のことです。
- 病原体を保有するダニとしては、野外に生息するマダニ類やツツガムシ類がいます。
- マダニの活動が盛んな春から秋にかけては、マダニに咬まれる危険性が高まります。
- 野外作業や農作業、レジャー等で、草むらや藪などに入る場合には、肌の露出が少ない長靴・長ズボンで、明るい色の服（マダニを目視で確認しやすい）を着用するなどして、感染症から身を守りましょう。
- マダニに刺された場合は、無理に引き抜こうとせず、医療機関（皮膚科など）で処置をしてもらいましょう。数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けて下さい。

「ダニ」にご注意ください



山や草むらでの野外活動の際は、ダニに注意しましょう



春から秋にかけてキャンプ、ハイキング、農作業など、山や草むらで活動する機会が多くなる季節です。

野山に生息するダニに咬まれることで

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、ダニ媒介脳炎、日本紅斑熱、つつが虫病、ライム病などに感染することがあります。

ダニに咬まれないためのポイント！

●肌の露出を少なくする

⇒帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等

●長袖・長ズボン・登山用スパッツ等を着用する

⇒シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中

●足を完全に覆う靴を履く

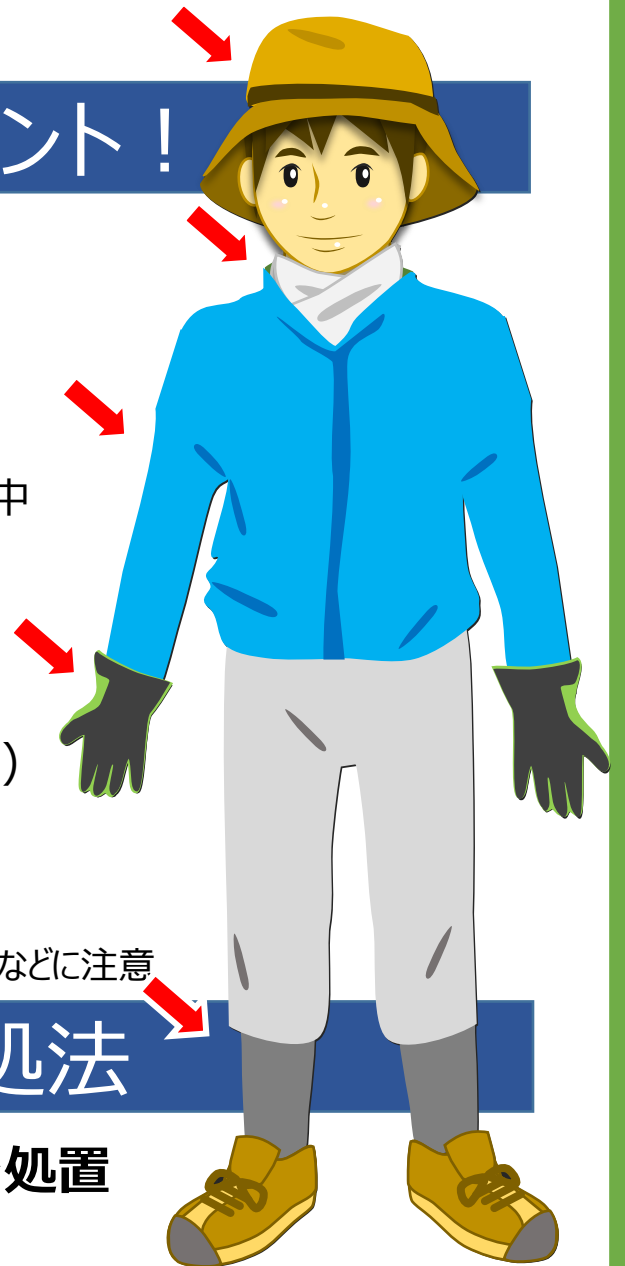
⇒サンダル等は避ける

●明るい色の服を着る（マダニを目視で確認しやすくするため）

* 上着や作業着は家の中に持ち込まないようにしましょう

* 屋外活動後は入浴し、マダニに咬まれていないか確認をしましょう

特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部（髪の毛の中）などに注意



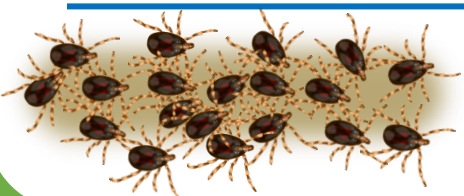
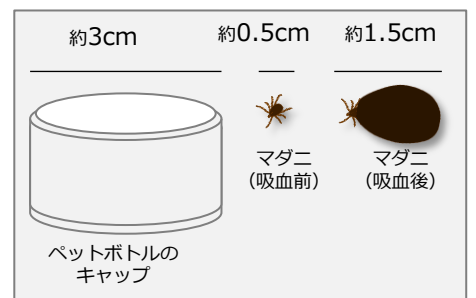
ダニに咬まれたときの対処法

●無理に引き抜こうとせず、医療機関（皮膚科など）で処置（マダニの除去、洗浄など）をしてもらいましょう。

●マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けて下さい。

【受診時に医師に伝えること】

①野外活動の日付け、②場所、③発症前の行動



ダニ媒介感染症（厚生労働省）

各地域のダニ媒介感染症の状況については各自治体HPも参考にしてください

